

呉 心 怡

早稲田大学文学学術院

はじめに

龍角寺古墳群は115基の古墳（円墳72基、前方後円墳37基、方墳6基）で構成されており、5基が主体部に横穴式石室を持つ。早稲田大学は1947年から龍角寺古墳群の調査を行っており、近年はデジタル技術を活用した墳丘の測量・GPR調査、および石室の三次元計測調査を継続的に実施している。本発表は古墳群内の石室を対象に実施した調査の概要について整理する。

1. 龍角寺古墳群の横穴式石室

龍角寺古墳群内で埋葬主体部が判明している古墳は少なく、確認されている横穴式石室は浅間山古墳、岩屋古墳の2つの石室、104号墳、みそ岩屋古墳の5基のみである。最後の前方後円墳といわれる浅間山古墳が雲母片岩の板石組横穴式石室であるのに対し、後続する方墳である残り4基はいずれも「貝化石（印西市周辺の貝層から切り出された貝を大量に含む軟質石材）」を主に使用して構築されている。なお、浅間山古墳に先行する石室は発見されておらず、緑泥片岩や凝灰岩、雲母片岩の箱式石棺が数基、報告されている。

以上から、貝化石の石室は浅間山古墳以降に築造された古墳に、新たに導入されたものだといえる。また龍角寺古墳群を含む印西市周辺には貝化石の石室が9基分布するが、墳丘のかたちが明瞭な5基のうち4基は方墳となっており（永沼1992）、方墳の導入に合わせて新たに採用されたと推測される。方墳と貝化石石室は地域における古墳時代の終末から古代への移行の様相を考えるうえで重要な遺構である。

2. 各石室の構造—三次元計測の成果から—

岩屋古墳（西石室）、104号墳、みそ岩屋古墳の石室は古くから開口しており、遺物が残されていない。そのため、石室の構造や構築技術から系譜関係を明らかにするべく、三次元情報を取得し、図面の作成等を行った。調査手法としては、SfM/MVSによる記録を基本としつつ、岩屋古墳とみそ岩屋古墳石室については、3Dスキャナーを使用した計測も実施した。

岩屋古墳西石室とみそ岩屋古墳は共に扁平な切石に加工された貝化石を積み上げて構築されている。岩屋古墳西石室は奥壁に大型石材を2石配置し、側壁は1石目にあたる141cmの高さまで垂直に積んだ後、持ち送り技法で内側に迫り出しながら台形の天井を作り上げている（図1）。みそ岩屋古墳は奥壁に一枚岩を使用しており、両側壁の持ち送りは緩やかなドーム状となっている（図2）。一方、104号墳で使用される石材はより方形に近い加工をされている。奥壁は切組み技法を使用して複数の石材を組み合わせて構築している（図3）。

なお、川村はそれぞれの展開図から、使用尺度を算出し、岩屋古墳西石室は1尺35cm、みそ岩屋古墳と104号墳は1尺30cmの尺度の使用を想定し、各石室の構築過程を復元したうえで、浅間山古墳、および龍角寺古墳群以外の貝化石石室との比較を行った（川村2020）。

3. 墳丘と石室の関係性—みそ岩屋古墳—

石室単体での分析に加えて、三次元情報を活用して、墳丘と石室の立体的な関係性について分析を行うために、既に石室の計測を行ってい

たみそ岩屋古墳について、2021年度に墳丘の測量・地中レーダー探査を実施し、墳丘のデータを追加取得した（吳ほか2022）。

調査により、みそ岩屋古墳は一辺約38mの三段築成の方墳であり、二重の周溝を持つ可能性が高いことが判明した。また南東に下がる傾斜地に築造されたために、墳丘全体が傾斜しており、北西側の周溝と南東側の周溝の底面にあたる位置の比高は約2mあることも分かった。

石室は墳丘の下面テラスに開口しており、南東に向いている。現状では開口部付近（羨道部前面）の高さより、玄室床面は約80cm低くなっている。なお、玄室はほぼ水平に造られている。

おわりに

貝化石石室をもつ古墳は、近隣に所在する龍角寺や郡衙関連遺跡などとともに、古墳時代終末期から古代への移り替わる時期の様相を把握できる遺構であり、石室の構築技術や構造についての細かい分析に基づいて、各古墳を位置付けていく必要がある。

現在、龍角寺古墳群内の貝化石石室のデータが蓄積されつつあり、今後は墳丘との位置関係を含めた検討や、上福田古墳群など周辺古墳の石室の調査も進める必要がある。また、貝化石石室とは異なる浅間山古墳石室（千葉県史料研究財団編1998）の系譜も検討課題である。

引用文献

- 川村悠太ほか2019「龍角寺古墳群横穴式石室の三次元計測—龍角寺岩屋古墳西石室・みそ岩屋古墳の計測—」『溯航』37
- 川村悠太2020「7世紀印波における横穴式石室の考古学的研究」『WASEDA RILAS JOURNAL』7
- 吳心怡ほか2020「龍角寺104号墳横穴式石室の3次元計測調査」『溯航』38
- 吳心怡ほか2022「みそ岩屋古墳の測量・GPR調査」『WASEDA RILAS JOURNAL』10
- 千葉県史料研究財団編1998『千葉県の歴史 資料編考古2(弥生・古墳時代)』千葉県
- 永沼律朗1992「印旛沼周辺の終末期古墳」『国立歴史民俗博物館研究報告』44



図1 岩屋古墳の西石室 (S=1/100)
(川村ほか2019・付図3)



図2 みそ岩屋古墳の石室 (S=1/100)
(川村ほか2019・付図6)



図3 104号墳の石室 (S=1/100)
(吳ほか2020・付図1)